

栃木県佐野市立 葛生小学校



eライブラリを日常に取り入れて活用 ～ 児童のやる気・興味関心を引き出す ～

葛生小学校はプラス思考で前向きに粘り強く、困難にも明るく立ち向かうことができるような児童の育成に努めています。その中で、日常的にeライブラリを活用して、児童の学習を見守ることで、やる気を引き出す声掛けを実践しています。今回は、eライブラリを普段使いしている様子をご紹介します。

Ⅰ 調べ学習で得た知識をeライブラリでさらに定着



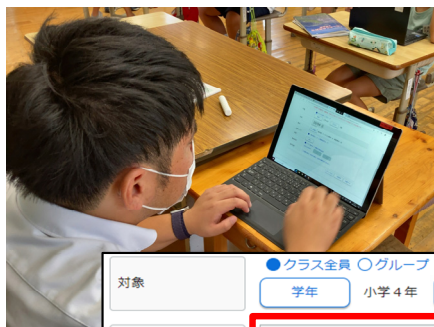
▲先生から出題された課題に取り組む

社会 4年：自然災害から人々を守る活動

めあて はい水機場の役割を調べよう

この日の授業では、排水機場の役割について調べ学習を行いました。「まとめを書いたら、eライブラリを開きましょう」という先生の声掛けから、児童はタブレット端末での学習に切り替え、eライブラリで先生から出題された課題に取り組んでいました。

Ⅱ eライブラリでの学びを次の調べ学習に生かす



◀一斉学習モードで課題を配信

対象	●クラス全員 ○グループ		
	学年	小学4年	クラス 1組
名称	10/17 6時間目ががんばれ！！		
教材	教材を選ぶ 教材数：1（ドリル教材：1 解説教材：0）		

▲課題のタイトルで児童のモチベーションアップ

POINT！ eライブラリを復習と予習に

この日の授業では、**復習だけではなく、予習でもeライブラリを利用していました。**

社会の授業は調べ学習を行うことが多いため、「次の授業で調べ学習をした際に、『eライブラリで見たことがある単語だ！』という気づきから、知識や調べる幅がより広がれば良いというねらいがあります」と丸山先生は仰っていました。

インタビュー eライブラリは、先生も児童も取り組みやすいツール

昨年度赴任した頃には、既にeライブラリが校内で活用されている状態でした。児童はその頃から積極的に利用しており、今では難易度の選択や解き進め方など、自分なりの方法が定着している様子が見られます。

eライブラリは**書くことが苦手な児童も、画面をタッチするだけで学習に繋がる点や、木の成長がモチベーションとなる点が、児童にとって取り組みやすいと感じています。**また、教員の立場としては、印刷や丸付けの時間が削減され、個別支援の時間を更に増やすことができました。



教諭
丸山 達也 先生

学校全体で児童の頑張りを見守る

氏名	確認テスト 実得点	平均点	ドリル学習 学習回数	平均点	総得点 確認回数
	7	81.6	22	83	6
	9	79.3	32	90.5	12
	8	80.3	24	92.8	7
	10	85	28	88.6	10
	7	89	32	87.1	5
	7	57.2	26	74.4	9
	6	94.4	25	92.8	6
	5	85.8	21	80.7	5
	5	85.8	21	88.2	5
	9	50.8	22	95.8	6

POINT！ 学習履歴の確認は、校長先生の一声から

児童の取り組み状況は担任の先生だけではなく、どの先生も確認することができます。

eライブラリを導入して間もない休校期間中、**校長室のパソコンから児童の学習履歴を確認していた校長先生が、熱心に取り組んでいる児童を見つけて担任に伝えたことが、履歴機能活用のきっかけとなりました。**

普段の学校生活やテストの点数だけでは見られない、**児童の隠れた努力を見取り、声掛けに生かすツールとして利用しています。**

▲夏休みなどの長期休業期間にも
自主学习での取り組みなどを確認

学習履歴で確認できること



▲進捗状況や正答率を確認でき、
一人ひとりに適した支援に繋がる



▲学習時間を確認することで、
生活指導に反映できる



▲児童が自分の学習傾向を
把握し、次の学習へ生かす

先生からの声

- **学びの入り口が豊富なため**、児童は学習する教材に迷うことなく、自主的に取り組むことができる。
- 問題の難易度を自分で選択できたり、一人ひとりに合った教材が抽出されるため、**個別最適化された学習ができる。**
- ヒントや解説教材で、**自分で苦手な部分を強化**できる。

インタビュー 学習履歴を生かし、児童のやる気や興味を引き出す



校長
御子柴 満 先生

学校経営の中では、児童のやる気に火をつけることを大切にしています。モチベーションを高める取り組みの一つとして、eライブラリの学習履歴を活用しています。**休業期間中に熱心に取り組んでいた児童を確認し、担任に伝えて褒めてもらったこともあります。**

eライブラリは、**児童の興味関心や可能性を更に広げられるツールだと考えています。**今は児童のペースで取り組むことが多いため、活用頻度の差が課題になっています。やらせっぱなしでは効果が期待できないとき、それを見極めて支援をするのは担任や授業者です。今後は、**学習履歴を生かし、児童一人ひとりへ適切な働きかけをする必要性を感じています。**